

## 国際化学肥料ニュース (2012年10月)

### 肥料業界の2012年10月動態

- \* イギリス CRU 主催の「2012年アジア窒素肥料とアンモニア会合」は10月10日からマレーシアクアラルンプールに開催された。イギリス CRU のアナリスト Marina Simonova は国際市場における尿素的需要量が年間3.1%の速度で増加し、2017年までにアジア地域の尿素的需要量が1.05億トンから1.27億トンまで増え、中国とインドは引き続き最大の尿素的消費国の地位を維持する。また、アンモニアの需要量も年間2.5%の速度で増加し、2011年の1.64億トンから2017年の1.89億トンに増える。なお、中国産尿素的の輸出量は生産コストの増大と輸出関税の規制により2017年に220万トンまで減少することとアメリカのシェールガス増産により現在年間1580万トンの窒素肥料輸入量が幾分減少するのではないかと推測する。

一方、オランダの代表は2012年のトウモロコシと大豆の世界全体収穫量が多分2008年以来の最低水準になり、食糧価格の高騰が避けられない。農家の耕作意欲を高めるために、アジア諸国政府が化学肥料の生産・輸入に優遇政策を取るべきであると提案した。

Galway グループの代表はこれからアジア地区の窒素肥料の発展が天然ガスの供給状況に左右され、廉価ガスの開発と供給がアンモニアと尿素的の生産にとっては一番大事なことであると述べた。

CRU の予測としては2011～2017年にアジア地域の尿素的生産能力が新たに約3300万トン増加する。その内訳は中国2500万トン、インド390万トン、ベトナム170万トン、マレーシア130万トン、インドネシア60万トン。

- \* 国際尿素的市場が弱気で動いている。中国が安値攻勢で9月の尿素的輸出量が大幅に増加し、10月と11月も同様の動きが見られた。これに伴い、尿素的の国際価格が小幅に値下げした。10月にアメリカ国内の尿素的価格が10～15ドル/トン値下げとなった。

インド IPL は10月6日に100万トン尿素的の入札を行った。また、インド STC は10月に再び100万トン尿素的の入札を行った。現時点では CFR 価格が400～410ドル/トンと応札されたのではないかと推測される。なお、中国10月末の輸出尿素的 FOB 価格が380～382ドル/トン、11月もこの価格で安定している見通しである。

- \* リン酸肥料の国際市況も引き続き弱気で動いている。DAP については、インドは国内に十分な在庫量があり、今年に公開入札の可能性がないとみている。10月中旬、インドに輸出予定の9万トン DAP (ロシア品と中国品) はパキスタンに転売され、CFR 価格が570～580ドル/トンであった。もう一つの DAP と MAP 輸入大国ブラジルも需要が弱く、輸入商社がロシア品の CFR560ドル/トンの見積りを拒否した噂がある。

- \* 加里肥料については、カナダ Potash Corp は今年世界の塩化加里需要量が昨年の 5500 万トンより 200 万トン少ない 5300 万トンと予想する。また、Potash Corp は割引の「夏季価格」を施行したことにより、アメリカとカナダの商社等が購買し始めたため、第 3 四半期の北アメリカの塩化加里販売量が 26%増加した。ブラジルについても今年 1～9 月の塩化加里輸入量は史上最高の 2011 年より 4%減少するだけで、引き続き高水準で推移している。しかし、カナダ Potash Corp とヨルダン APC の販売データから今年第 3 四半期の加里肥料市況が弱みで、回復の兆しが見えていない。塩化加里の過剰在庫を解消するため、Potash Corp は 11 月 18 日から 2013 年 1 月 12 日までに Lanigan 工場、12 月 2 日から 2013 年 1 月 26 日までに Rocanville 工場をそれぞれ休止すると発表した。この生産停止により Lanigan 工場は約 51 万トン、Rocanville 工場は約 41.5 万トン、計 92.5 万トン塩化加里を減産する。他方、ロシア Uralkali は今年第 4 四半期に 70 万トン塩化加里を減産し、年間の生産量を 930 万トンとすると発表した。ベラルーシの Belaruskali も減産予定を発表した。
- \* ベトナム新聞報道によれば、ベトナム国営石油天然ガス公社 (PVN) は今年 1～9 月に当社傘下の DPM 尿素工場と DCM 尿素工場の生産量が 100 万トンを超えた。10～12 月に約 24 万トンを生産し、今年の実績が計画より 20 万トン多い 141 万トンに達する見通し。今年にはベトナム石油化学工業公社 (PVFC) の Ca Mau 工場 (尿素生産能力 80 万トン/年) とベトナム化学工業公社 (Vinachem) の Ninh Binh 工場 (尿素生産能力 56 万トン/年) の竣工により、国内尿素生産量が 35%増加し、年末には尿素在庫量が 30 万トンに達する見通し。
- \* ロシア政府の統計データによれば、今年の実績が計画より 20 万トン多い 141 万トンに達する見通し。今年にはベトナム石油化学工業公社 (PVFC) の Ca Mau 工場 (尿素生産能力 80 万トン/年) とベトナム化学工業公社 (Vinachem) の Ninh Binh 工場 (尿素生産能力 56 万トン/年) の竣工により、国内尿素生産量が 35%増加し、年末には尿素在庫量が 30 万トンに達する見通し。
- \* ロシア政府の統計データによれば、今年の実績が計画より 20 万トン多い 141 万トンに達する見通し。今年にはベトナム石油化学工業公社 (PVFC) の Ca Mau 工場 (尿素生産能力 80 万トン/年) とベトナム化学工業公社 (Vinachem) の Ninh Binh 工場 (尿素生産能力 56 万トン/年) の竣工により、国内尿素生産量が 35%増加し、年末には尿素在庫量が 30 万トンに達する見通し。
- \* エジプト Mopco は 10 月 17～18 日に 2.5 万トン尿素の入札販売を行った。天然ガスの不足で、Mopco 以外の尿素メーカーは OCI に 20%、Alexfert に 30%の天然ガス供給量が削減された。通常、エジプト尿素輸出量が 27～28 万トン/月であるが、天然ガス不足により 10～12 月の尿素輸出量が 36 万トンまでに減少する見通し。

## 大手各社の営業業績

- \* アメリカ Mosaic 社は 10 月 2 日に今年度第 1 四半期(4~6 月)の業績を公表した。営業収入 25.1 億ドル (りん酸肥料 16 億ドル、加里肥料 9.6 億ドル) 、昨年同期より 19% 減少し、純利益も 19%減の 4.29 億ドルであった。
- \* サウジアラビアの Safco は今年 7~9 月の純利益は尿素価格の低下により約 5.1%減の 3.07 億ドルであった。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* インド BEC 化学肥料社は 7.5 億ルピーを投資して、Chhattisgarh 州 Bilaspur 市にある肥料工場を拡張する。過石生産能力が 40 万トン/年から 44 万トン/年、化成肥料生産能力が 4.5 万トン/年から 44 万トン/年、硫酸生産能力が 10 万トン/年から 14 万トン/年の計画である。また、該社は Maharashtra 州 Wardha 市にある肥料工場についても拡張する計画である。計画では化成肥料生産能力が 6.6 万トン/年から 15 万トン/年、粒状過石が 6 万トン/年から 20 万トン、硫酸生産能力が 2.2 万トン/年から 5.5 万トン拡大する予定。現在、当該計拡張画について環境アセスメントを行っている。
- \* ケニア政府農業部は東アフリカ共同体が計画している共同出資の化学肥料工場の建設に先行着工する。当該肥料工場の総投資額 4.1 億ドル、2030 年に生産能力が 126 万トン/年に達する計画。ケニアは東アフリカ最大の化学肥料需要国で、2010 年の需要量が 44.68 万トン、2020 年に 54.33 万トン、2030 年に 63.73 万トンに増加する。なお、東アフリカ第二の化学肥料需要国はタンザニアで、2020 年に 32.74 万トン、2030 年に 42.58 万トンの化学肥料が必要とする。当該化学肥料工場は増加し続ける東アフリカ諸国の肥料需要に応じて、各国が共同で出資し、建設するものである。
- \* ベトナムりん鉱石公社はラオカイ省にあるりん鉱山の No.3 選鉱工場を竣工し、10 月 23 日に生産開始した。りん鉱石精鉱の生産能力が 35 万トン/年。当該工場は 2007 年 8 月に着工、投資額 3822 万ドル、使用年限 30 年。製品は主にベトナム国内のりん酸肥料の原料とする。
- \* カナダの Potash East は Milestone 加里鉱山の採掘可能性研究に 1500 万ドルを投資する。今までの採掘結果によれば、当該加里鉱山が 280 万トン/年の採掘量を保つ場合は 40 年以上が採掘できる。

### その他

- \* ロシアの **Eurochem** 社は 10 月と 11 月に小幅の生産調整を行い、リトアニアにある肥料工場の生産量を 6 万トン／月まで減産する。理由は販売不振である。
  
- \* パキスタンの新聞によれば、天然ガス不足で国内の尿素生産量が大幅減少し、今年冬期の尿素生産量が 190 万トンに留まる。なお、パキスタン今年冬期の尿素消費量が 300 万トンと予測して、不足分として 40 万トン以上の尿素を輸入する必要がある。
  
- \* 10 月 24 日、三井物産と住友商事は、今年 3 月 8 日に発表した国内肥料事業統合に関する基本合意について当初の想定通りの統合効果が見込めないとの結論になり、その基本合意を解消します。但し、2010 年 3 月より行っている海外肥料原料輸入事業における業務提携は継続するとのことである。